

# 島根県益田市真砂地区

地域づくりのテーマ：「食育」と「福祉」を主軸に、地域で子どもを育てる“子育てしやすい”まちづくり



## ①地区の概要

【地区の現況】(令和5年1月末時点)

- ◆人口：310人(高齢化率:53.2%／147世帯) ◆自治会：8
- ◆面積：29.72㎡ ◆市内より約15km(車で約20分)

【地区の魅力】

日晩山(標高744m)の伏流水を利用した米や豆腐が特産品。H23年度から公民館・地域商社・小中学校が連携し開始した「食育活動」が実を結び、現在は社会福祉法人も参画し発展。さらに真砂保育園の「里山保育」は地域住民を巻き込んでの小さな福祉活動として定着しており、これらの複合的でアットホームな取組が小さな山間部の地区ながらソーシャルイノベーションの事例として地域づくりの専門家からも注目されている。

【地区の課題】

年々深刻になる人口減少に伴い、令和3年9月末で公共交通路線が撤退、翌年3月には真砂中学校が統廃合となった。しかし、その後中学校跡地に地域で建設を要望した複合施設(地域活性化交流館)が令和4年末に完成したことから、今後この施設活用を入居予定団体を中心に地域全体で取り組むことで、山積する地域課題を解決していきたい。

## ②実施団体の概要

【団体の名称】

地域自治組織 ときめきの里 真砂(H28.4.24設立)

【構成団体、構成員】

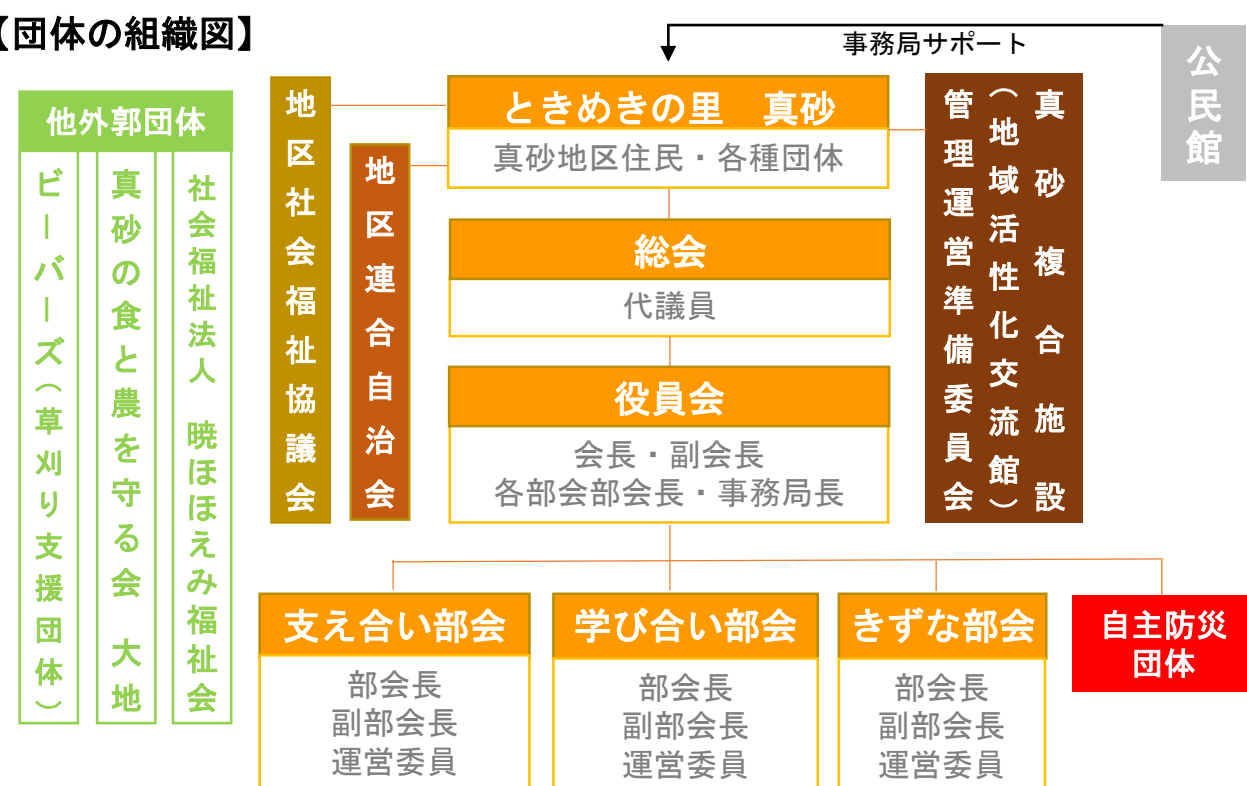
会長1名、副会長2名、監事2名、事務局長1名、会計1名

- ・支え合い部会 (男性2名、女性4名)
- ・学び合い部会 (男性4名、女性2名)
- ・きずな部会 (男性10名、女性5名)
- ・自主防災団体真砂 (班長5名、事務局1名)

◆他主要活動

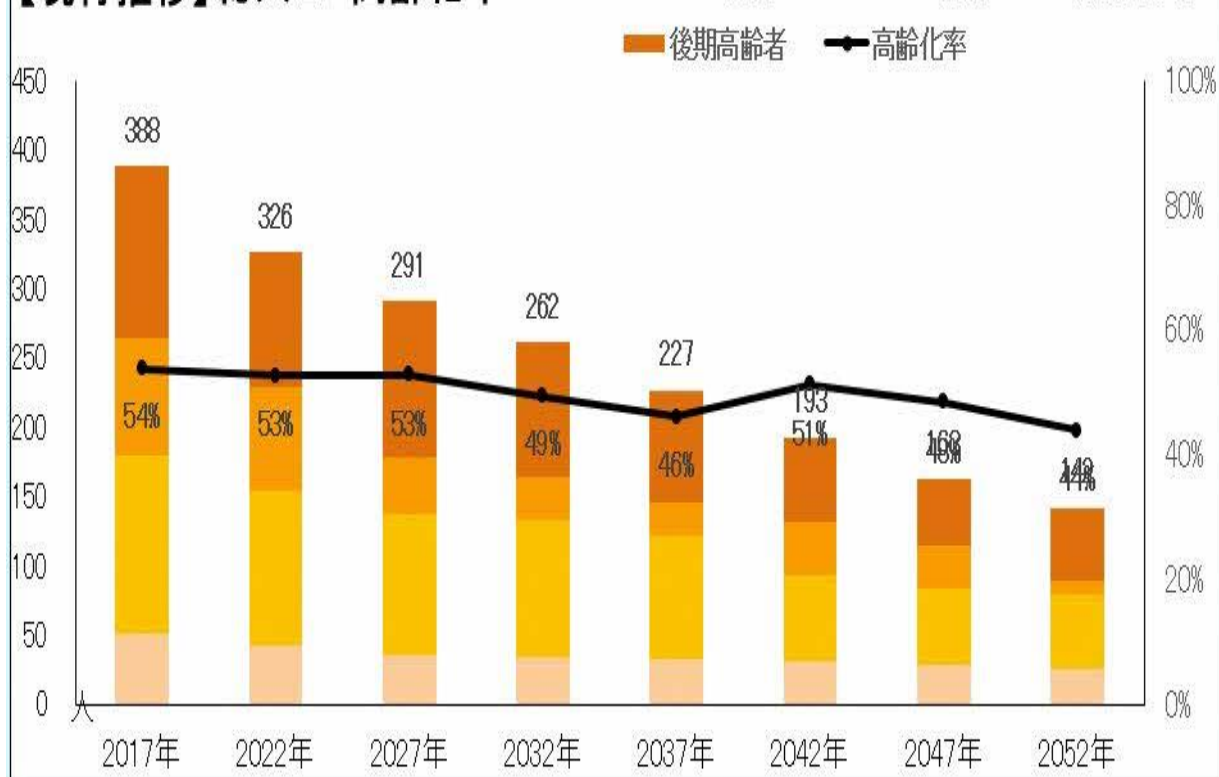
- ・ひら山のふもとカフェtele-glue(てれえぐれえ)運営管理

【団体の組織図】



## ③地区の人口シミュレーション

【現行推移】総人口・高齢化率



資料：島根県中山間地域研究センター「2022人口推計シート」

## ④地域の魅力化に向けた取組

◆保育所等への給食食材提供「高齢者の生きがいづくり」

高齢者の生きがいづくりと経済力向上を目的に、H23年より地区住民の家庭菜園の“あまり野菜”を市内3保育所や関連する福祉介護施設の給食食材等として集出荷しており、画期的なスモールビジネスとして多数の専門家からも評価を得ている。活動開始当初に公民館教室として実施していた真砂オリジナルの「土づくり」が参加した生産者の中で定着し、安心安全をコンセプトとした真砂野菜ブランドが確立している。

◆ふれあいバスツアー「買い物支援×交流」

交通弱者を対象に、地区内デイサービスの送迎車の空き時間を利用し、市内大型スーパーで買物をした後、真砂保育園にて園児と交流するバスツアーを月6回実施している。※園児との交流はコロナ禍にて休止中

◆真砂保育園の里山保育「小さな福祉活動」

“地域全体が園庭・住民全員が保育者”がコンセプトの「里山保育」は、地域の方とのふれあいを通じた多様な学びを大切にしたい保育。園児は日々の“さんぽ”で住民等と交流を深め、保護される立場だけでなく、高齢者に対しては必然的に見守りをかねた小さな福祉活動を行っている。



【団体長メッセージ】 多くの方々のご支援により、真砂小学校を核とした複合施設(地域活性化交流館)の建設も、外構舗装工事を除き昨年末に完成いたしました。先行して、小学校・公民館・自治組織が1月より新施設にて業務を開始しておりますが、さっそく公民館の職員や応援隊員が小学校の授業に関わる等の交流がみられるようになり、多様な団体が同じ施設に入居するメリットを感じているところです。今後、3月には保育園、診療所も入居され、来年度からは本格的に地域の核として施設運営がスタートします。住民の皆さんにとって住みよい地区にするため、当組織も地域の方々と一緒に、この素晴らしい施設を最大限に有効活用し、「何事もやってみようよ、やってみなければわからないよ！」の思いを共有しながら前を向いて歩んでいこうと思います。



# 島根県益田市真砂地区

## ⑤こんなことが話し合われています



### ときめきの里 真砂 役員会

学校耐震化協議会から引き継ぎ、住民の意見をまとめて市に提案書を提出した複合施設(地域活性化交流館)が、令和4年末に完成したことから、今後は複合施設管理運営準備委員会と連携しながら、住民の方が施設を日常的に活用できるよう多様な仕掛けを協議中。



### 真砂複合施設管理運営準備委員会

令和4年に、複合施設(地域活性化交流館)の入居団体を構成員とした、施設管理と運営に関して協議する準備委員会を結成。市役所の各担当課や有識者との意見交換会、入居団体の引っ越しの準備・声掛けや、地域住民に対しての情報発信等も行っている。



### イベント実行委員会

今年度はイベント会場となる旧中学校が工事中で制限される中、小学校(旧校舎)で行われた最後の大運動会は大成功。感染症によりさくら祭はイベントとしては中止、まるごとフェスタは保護者のみと規模縮小となったが、後日公民館で録画映像の上映会と掲示物の展示を実施。



### 小学校教員×公民館職員ワークショップ

複合施設(地域活性化交流館)に入居する際、小学校と公民館の職員が同室になることから、お互いの職員の様々な不安解消と友好的な関係づくり構築のため、津和野からコーディネーターを招き、アンケートや個人面談の実施、チームビルディングワークショップ等を開催した。

## ⑥こんな地域づくりを行なっています

自主防災団体真砂×地区連合自治会  
避難経路等整備事業(益田市まちづくり特別補助金事業)  
『暗い夜道を照らすプロジェクト』



目的: 地区外へ通う中学生の防犯対策、日常の支援を含めた有事の防災対策として、地域住民が安心安全に暮らせることを目的とする。

概要: 令和3年度に、一部の地域でソーラーライトを試験的に設置して実績を積み、本年度、自主防災団体真砂の各班(全5班)から要望された10路線75か所に対して、各自治会の協力を得ながら設置した。

作業は各班別に自治会協力のもと実施。夜間に発生する災害を想定しており、有事の際に自宅から避難場所へ安全に移動することへの不安解消に少しでも繋がることを期待する。

また、当初想定していなかった鳥獣被害の軽減にもつながっており、住民からの評判もよい。設置後の管理については各自治会が担当することとしている。

きずな部会  
多世代交流イベント



目的: 地域の子どもと大人が様々な活動によりつながることで、子どもたちの思い出づくりと地域への愛着形成を、また大人が活動を通し地域の子どもたちの性質を把握したり様々なことを伝えることで次世代育成を図る。

### 概要: ①「親子で川遊び」

7月30日(土) 子どもたちの夏休みの活動の一環として、柿原地区で川遊びを実施。

### ②「みんなでラジオ体操」

8月に全4回開催。今年は東中6カルプロジェクトとコラボ企画で、多くの中学生が参加した。

### ③「大学生と夏休みの勉強会」

8月17日(水)、真砂公民館にて、ボランティアハウスとコラボ企画で、小学生の子どもたちが、帰省中の5名の大学生から宿題を教わりながら交流した。

地域活動交流拠点

ひら山のふもとカフェtele-glue(てれえぐ)



目的: 飲食店のない当地区において、住民が気軽に集まり、飲食しながら地区内外の人たちと交流できる場づくり等を目的にH28年にオープン。

概要: 調理師免許の資格不要で誰でもワンデイスシェフとして“いちにちカフェ”が営業できる厨房付きレンタルサロン。

定期出店は、住民による週2回の「早朝モーニング喫茶」(朝6:00~9:00頃まで)の他、市内雑貨店企画の月イベント「イツモni+」で、プロアマ問わず市内外のシェフによるランチ、リラクゼーションの施術や手作りワークショップ等のイベントを定期開催している。

感染症による制限もあるなか、早朝モーニング喫茶の時間に合わせ、週1回、市内指圧院の出張マッサージも加わり好評を得ている。

### 【ときめきの里 真砂 事務局】

〒698-0411 益田市波田町イ490-1 ひら山のふもとカフェtele-glue横

TEL/FAX 0856-26-0002(真砂公民館内)

HP(真砂+) <http://masagoplus.jp/>

facebook(真砂+) <https://www.facebook.com/masagoplus/>

お問い合わせ先

